

Title	民俗資料類纂(千葉県市川町九九三, 日本民俗研究会著)
Sub Title	
Author	宇宿, 捷(Usuku, Sho)
Publisher	三田史学会
Publication year	1931
Jtitle	史学 Vol.10, No.1 (1931. 3) ,p.150- 151
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19310300-0151

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

英國會の威嚴は従前の如く、高い地位を占めてゐた。而して特殊の魅力は英雄型なる二人の首領の劇的對照と角逐による國會の討論に於て發揮せられた。オクスフォードの教會員グラッドストーンと、猶太人出身の冒險家ヂスレリイとは、孰れも驚く可き活動力と不撓の勇氣と、而も絶大なる辯才を備へて、一は道徳的熱情に富み、他は想像力と頓智に勝れてゐた。グラッドストーンは財政に於て國人の興味を喚起し、ヂスレリイは英帝國にその興味を引かんとした。兩者ともに、痛く貧人の福利に對して、而して、名譽と云ふことに對する兩者の解釋は夫れ々異つてゐたにもせよ、何れも海外に於けるイギリスの名譽に對して、注意を拂つた。彼等が交互に政局に立つてから、國家は以前の何れの時代に於けるよりも、國民生活に對して、より多く貢獻するに至つた。(一五四—一五五頁)

夫れから、**憲章主義運動**の失敗の原因が、穀物法撤廢に因る労働階級の生活の安易と、この運動が適當なる首領を缺いてゐたことに因ると云ふことは、從來の歴史家も唱道してゐるところだが、著者は一步を進めて、左の如く論述してゐる。

憲章主義の目的は茫漠であつたが、穀物法廢止聯盟のそれは、一定の限られたものであつた。憲章主義の弱點であつた首領と組織とに於て、聯盟の方は強かつた。憲章主義が主として労働階級の運動であつたに反して、聯盟は専ら中等階級の運動であつた。而も中等階級出身の憲章黨員と、労働階級出身のそれとの間に於ける杆格が、漸く加はり來るに反して、聯盟は次第に労働者の間にその勢力を擴張した。(八七頁)

以上は書中に散見した筆者の氣付たところを抜載したものに過ぎないが、この類の著者のインサイトは、隨處に見受けらるる。要するに、本書が簡單なる英國最近世史として、容易に得難き好著たることは、筆者の推獎して憚らざる所である。併し乍ら、これを同じ叢書のポラード教授の英國史——上下千數百年の英國史實をば、矢張り二百五十餘頁内に壓搾した名著に比較するときは、尙ほ史眼に於て、史筆に於て飽き足らぬところが無いでもない。史眼のことは姑く措き、著者のスタイルは成る程、明暢ではあるが、含蓄と莊重とに於て足りないところがある。この點に於ては、ポラードの著に及ばないのみか、これも最近出版せられた同叢書のラムゼー・ミューア教授著 *Political Consequences of the Great War* に對しても遜色があると思ふ。(占部百太郎)

民俗資料類纂

(千葉縣市川町九九三)
日本民俗研究會著

民俗學が史學の研究範圍内に取り入れられ研究せらるゝ事になりしは極く新しい事である。従つて此の方面の研究に關する書籍も僅少である。新しい歴史を知るにはこの民俗學を無視し得ない事は言を俟たぬ。何故ならば民俗學と歴史とは兄弟であり、且つ歴史は手を取つて進んで行くのがこの學問の使命である。

西洋に於ては既に十九世紀にこの研究に着眼し初めてゐる程である。しかるに日本に於ては從來この學問を輕々しく扱つてゐたのであるが、近年自國の民俗を自國民が研究せねばならぬ氣運に向つて來た事は非常に慶賀すべき事である。

顧るに、この學問を研究するに困難なることは、時代を経るに従ひ民族の風俗、習慣、生活様式、言語が徐々に或は急激に變遷する事にある。舊來行はれしものが衰微し終には亡ぶ事は當然である。故にそれら民族の風俗、習慣、生活様式に關する資料を蒐集し完全なるものとする事が現在の急務である。しかして今迄の記録の整理並に計畫的研究觀察を以て昔より存せる切々の資料を蒐集し將來の人々のために忠實に記すことが大切である。

此に紹介する本山桂川氏の「民俗資料類纂」が上記の目的のもとに逐次編纂せられつゝあるものにして、著者は困難なる索引の完成に努力せられつゝある。既に第一冊は三月中旬は刊行された。

民俗資料類纂の著者本山桂川氏は次の如く述べられてゐる。

「民俗資料の採集と探求とは今や異常なる發展を示して参りました。今後夫等各部門各項目に亘る系統的専門的研究が益斯界に要求されるのは必然であります。此の際お互研究上の無駄を省く爲めにも、既に發表され又將來續々發表される民俗資料の分類整理をつけて置くことは差迫つての急務であらうと考へます。依つて先づ近世期に於ける新舊刊行本、未刊行本並に新古各種の雜誌其他必要の文献を渉獵し一々其出所、筆者、發表年月日等を明記し、記事の内容を分類編纂して逐次之を刊行頒布しようと思つてました。其分類方法は概ね日本社會事彙や廣文庫の様式に倣ひ、五十音大別の下に更に小類別を設け各項共に追加挿入の出来るやう編輯致します。例へばアの部アイの項にはアイヌに關する民俗資料が類別され、イの部イナの項にはイナウイナリ等に關する民俗資料が類別登載されます。即ちこれ

を分割すれば五十音各項別民俗資料カードとなり、之を集積すれば類別民俗事彙の一大集成を形作るわけでありませう。

以上に依つても此の仕事は非常な努力と多大な時間と熱心と根氣を傾けなければ完成され難き性質のものである。

最後に刊行せられし「民俗資料類纂」の「第一冊」の目録を記せば左の如し

アの部 その一

「アイゴノツカ」(愛護ノ若)

「アイヌ」

アイヌの衣服、アイヌの飲食物、アイヌの住居(家居)、アイヌなる名稱、アイヌの信仰生活、アイヌの婦人、アイヌの婚姻、アイヌの出産、アイヌの命名、アイヌの鬚髻、アイヌの熊祭(熊途)

以上が内容である。

(昭和六、三、一九、宇宿 捷)

現代神道概説

(古野 清人 著)
(山喜房出版部發行)

著者は、田邊壽利氏に依れば、(讀賣新聞二月二十四日、二十五日所載)現代に於ける宗教研究の社會的意義(參照)デュルクムの劃期的大著「宗教生活の原初形態」(前半)の譯者であり、しかも該書の譯者として適任である、單なる社會學者でも單なる宗教學者でもない有力なるデュルクミアンであり、又東大宗教學科の生んだ麒麟兒でもある。